

地球環境と世界市民

EARTH ENVIRONMENT AND GLOBAL CITIZEN

「地球環境と世界市民」国際協会は、地球上に存在する一人一人が世界市民であることを自覚するとともに、その世界市民が国際的に「地球環境問題」ひいては「生命に関わる問題」についての理解を深め、その解決への取り組みを“今できること”から実行し、協力していくことを目的とした協会です。このニュースレターは、本協会のこうした主旨にもとづき、協会員相互のコミュニケーションをはかるために発行されています。

「地球環境と世界市民」国際協会第2回大会

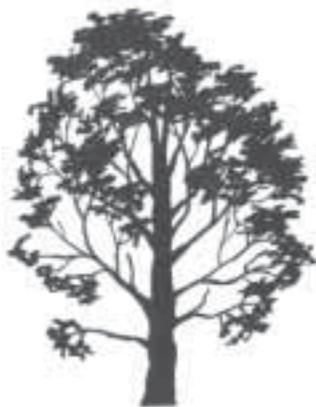
会長 谷口文章

1999年8月に中国の北京大学で、日中環境教育情報交流協会設立大会と第1回シンポジウムを開催しました。この交流協会は、「地球環境と世界市民」国際協会の中国ブランチの設立をめざしたものでした。したがって、日中交流協会の第1回シンポジウムが盛況に開催されたことも考慮して、本協会の第1回大会とし、2000年4月1日、2日の大会を第2回大会とすることにさせていただきます。

日本で大きな大会ははじめてのことではありますが、一般の市民の方々が気楽に参加できますように工夫いたしました。そのために若手研究者・教育者の研究発表だけでなく、ワークショップにはできるだけ日常生活に即したエコ・クッキングや環境教育の教材にすぐ使えるペットボトルの再利用法なども企画

しております。さらに、日中環境教育情報第1回シンポジウムとエコツアーのVTR報告、環境教育情報の教材開発：インターネットのデモンストレーション、「心の環境」「日常の健康環境とセルフ・ケア」「臨界事故と環境問題」などのラウンドテーブルディスカッション、そして若者たちの学生討論会を予定しております。

世界市民としての国際的視野から、地球環境問題を考えていきいと思います。皆様の多数のご参加をお待ちしております。



協会からのお知らせ

「地球環境と世界市民」国際協会・第2回大会のご案内

本協会では来る4月1日と2日に、一般の市民も参加できる大会を開催いたします。研究発表のあと、ワークショップでは、エコクッキングの実習や石鹸づくりの展示紹介。ペットボトルの再利用の体験学習も準備しています。参加者の人々と和やかな雰囲気で大会をくり広げ、参加型の環境教育を展開したく考えております。一人一人が実践できることから行なうことを、学ぶ場とする予定です。

さらに、情報教育のためのインターネットを用いた教材のデモンストレーションと、国際的視野を広めるために、昨年8月に中国・北京大学における第1回大会の様子と内モンゴル・エコツアーのVTRを放映いたします。そして「地球環境と世界市民」の身近なライフスタイルをテーブルディスカッションで学び、また学生討論も開催します。多数のご参加をお待ちしております。

日時：2000年4月1日（土）～2日（日）

場所：甲南大学 8号館（4/1）、1号館（4/2）

主催：「地球環境と世界市民」国際協会

後援：日本環境教育学会

プログラム

パネル展示（2日間）

4月1日（土）：会場8号館（821, 822, 823教室）

10:00 受付：8号館1階

10:30～12:30 研究発表会（1人30分 計12人予定）分科会A（821）：環境教育、
B（822）：環境倫理、C（823）：環境文化

12:30～13:15 昼休み

13:15～13:30 ミニ・コンサート「グリークラブ：民謡、唱歌」（824）
（理事会 13:00～13:30、821教室）

13:30～14:00 あいさつ：「地球環境と世界市民」国際協会・会長 谷口文章
総会

14:00～16:30 ワークショップ（812）

【パート Ⅰ】

エコ・クッキング（懇親会るとき試食します）
榊 みどり（調理師）、高井賢一（料理研究家）

【パート Ⅱ】

ペットボトルを使ったリサイクル

飯尾美行(静岡県立浜松城北工業高等学校・教諭)

【パート】

廃油石鹸・オリーブ石鹸の展示(作り方の紹介)

甲南大学・谷口ゼミ

16:30 ~ 17:10 参加者との意見交流

17:30 ~ 懇親会(甲南大学生協グリル)

4月2日(日): 1号館(131教室)

9:30 受付: 1号館3階

10:00 ~ 10:30 第一回大会の報告: エコ・ツアーVTRの放映

「日中環境教育情報交流協会シンポジウム(於: 北京大学)
及び内モンゴル調査旅行」

飯尾美行(静岡県立浜松城北工業高等学校・教諭)

渡邊俊隆(甲南大学・講師)

10:30 ~ 12:00 特別講演・環境教育情報の教材開発:

「インターネットを使用した大学教材の紹介」
(教材のデモンストレーション)

高阪 薫(甲南大学・教授)、今井佐金吾(神戸市環境保健研究所・部長)、

谷 壮吉(小松病院・院長)、谷口文章(甲南大学・教授)

12:00 ~ 13:00 昼休み

13:00 ~ 13:30 ミニ・コンサート(民族音楽)

13:30 ~ 15:00 ラウンドテーブル・ディスカッション

(1セッション40分・会場との交流)

テーマ: 「21世紀の『地球環境と世界市民』の身近なライフスタイル」

話題提供:

上野 轟(大阪教育大学・教授): 「心の環境 - 今・ここを・ともに - 」

谷 壯吉(小松病院・院長): 「日常の健康環境とセルフ・ケア」

今井佐金吾(神戸市環境保健研究所・部長): 「臨界事故と環境問題」

15:30 ~ 15:40 休憩

15:40 ~ 17:10 学生討論会

テーマ: 「若者の担う『地球環境と世界市民』」

コーディネーター: 赤尾整志(学校ピオトップネットワーク・事務局長)

参加校:

神戸女学院大学、東京大学、大阪教育大学、甲南大学(予定)

17:10 あいさつ(閉会)

申込方法

1) 4月1日か2日の両日か、いずれか1日か

2) 名前、所属、連絡先、電話・ファックス番号

3) 2日の昼食に弁当(600円)の要・不要

4) 懇親会の参加・不参加

参加費 一般 3,000円(学生 2,000円) 懇親会費 一般 3,000円(学生 2,000円)

以上をご記入の上、3月25日(必着)で事務局までお葉書でお申し込みください。

会場の案内・連絡先

4月1日(土)

研究発表 8号館2階: 821, 822, 823 教室

理事会 8号館2階: 821 教室

ワークショップ 8号館2階: 812 教室

実行委員会 8号館1階: 811 教室

懇親会 大学生協食堂グリル

4月2日(日)

終日 1号館3階: 131 教室

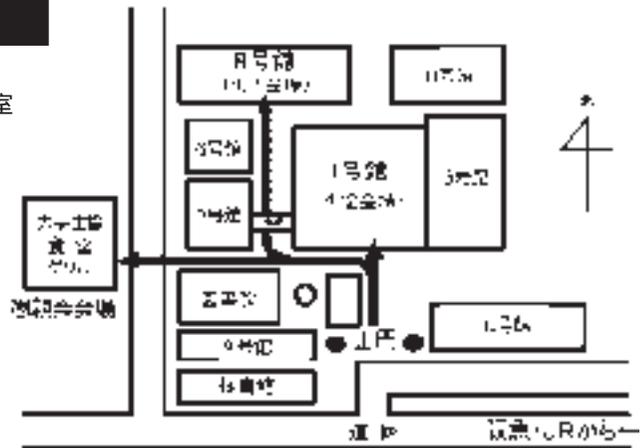
実行委員会 1号館3階: 132 教室

連絡先(両日)

谷口研究室 078-435-2368 [直通]

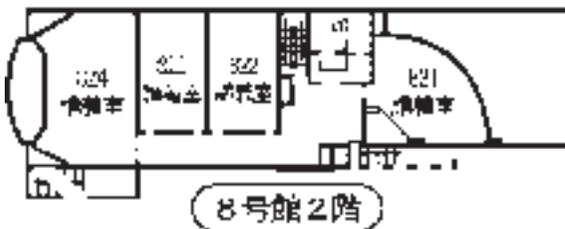
携帯電話 090-2118-1758 (谷口)

携帯電話 090-328-62110 (天野)

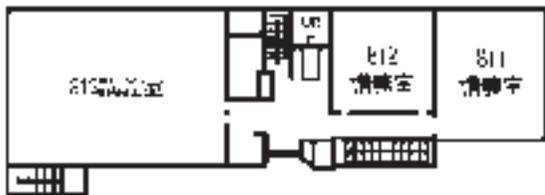


校内見取図

○4月1日

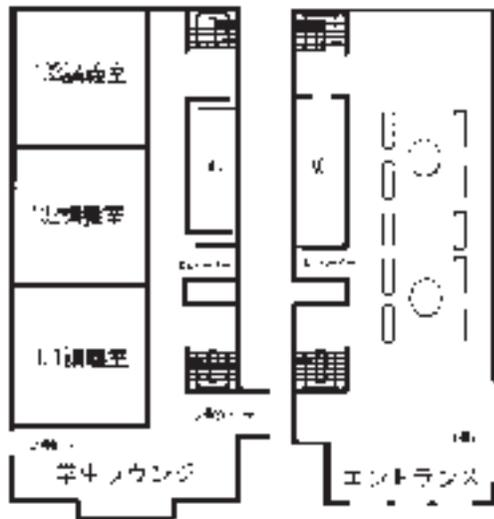


8号館2階



8号館1階

○4月2日



1号館3階

1号館1階

甲南大学地図



大会当日のご注意

会場へは電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

4月1日の昼食は甲南大学生協にてお願いいたします。(2日は生協が休みのため、事前に弁当をお申し込みください。)

8月15日から22日まで、中国の北京から内モンゴルのフフホト・包頭などをまわってきました。（実は、私はこの為に、生まれて初めてパスポートなるものを取ったのです。）

詳しいことについては、本庄先生や天野さんと一緒に次回のワークショップで発表することになっているので、ここでは思いつくままにとりよめのないことを述べていきます。

まずひとつは、ごみのポイ捨てです。北京の街中は、大阪の街中よりかなりごみが少ないと思いましたが（ポイ捨てをすると、北京では罰金を取られるとか）、それ以外のところでは、どうなっているのでしょうか。

内モンゴルの大草原で、私たちみんなで馬に乗せてもらったときのこと。馬に乗って先導してもらったモンゴル人の若者が煙草を取り出して吸い始めたのですが、空になった煙草の箱をポイと草原に投げ捨てたのには驚きました。鎌田さんが「あーっ、だめだよ、そんなことしちゃ。」と言いましたが、先方は全く気にも留めない様子。そういえば、草原をバスで移動したときも、日本の山や海と同様、小型のペットボトルなどのごみが所々に落ちていたのが悲しかった。捨てたのは、地元の人なのか、外国人を含む観光客なのか定かではありません。

もうひとつ、包頭から北京へ戻るときの夜行列車の中での話。小さな女の子を連れた母親と一緒にになりました。子どもさんの年を尋ねる

と、1歳だという。ところがもうおむつをしていないで、服のお尻のところ割れている。中国の子どもは7ヵ月くらいでおむつを使わなくなり、用を足したくなったら自分でしゃがんでしまうようになるという。私は、そんな小さな子どもにトイレなんて分かるだろうか、トイレ以外の所でしたくなったらその場でしちゃうだろうか、と疑問を感じましたが、母親には聞けないでいました。と、子どもが、廊下（私たちの乗っていた列車は、コンパートメントに分かれていた）でしゃがんでしてしまったのです。小便を。日本でなら、母親が子どもを抱えてトイレへ駆け込むか、してしまった後ならあわてて始末しなければならないでしょう。ところが、この母親は何もしない。中国ではこれは普通の光景なのでしょうか？更に、翌朝、そこに何の臭いも感じられなかったのも、不思議でした。

現在の中国の姿は、数十年前の日本の姿に似ているとよく言われます。勿論、現代の日本と同じ部分も（先程のポイ捨ての話も、日本でも一向に変わりません）あると思うのです。帰国する前夜、中国の学生たちとも話をしたのですが、中国には本当に改善しなければならない部分もたくさんあるし、日本では既に失われてしまった古きよきものも多い。改善しなければならないものは何で、ぜひ残したい大切なものは何か？それを見いだす鍵として、環境教育があるのではないのでしょうか。



草原に建てられたパオ



パオの中で馬乳茶を頂く

「地球環境と世界市民」国際協会・第1回研究会(甲南大学総合研究所・「環境教育の開発プログラム」研究会、日本環境教育学会関西支部共催)は、帰国後に開催された。会場は甲南大学9号館第6会議室で行なわれ参加者は28名、話題提供者は、本庄 眞 氏(奈良県香芝市立真美ヶ丘東小学校)、田代智恵子氏(大阪市環境事業局職員課)そして筆者であった。

まず初めに本庄氏からエコツアーおよび同時に開催された日中環境教育情報交流協会第1回記念シンポジウムの概略を説明していただいた。特にシンポジウム2日目の一般研究発表(B分科会)において自ら発表された内容も含めて、同じ環境教育というテーマであっても、国を異にすることでどのような点が共通し、また相違しているかということ、さらに1990年と1995年に本庄氏が国際会議にて訪中した経験を踏まえて、この10年間を比較した考察をお話していただいた。

つぎに田代氏から、シンポジウムの翌日からのエコツアーについて説明していただいた。田代氏には関西エコメール51号(日本環境教育学会関西支部発行)において関西支部第1回エコツアーの報告を執筆していただいたが、そこでは中国の特にゴミ問題と衛生のことについて触れられていたのは記憶に新しい。また、今回の報告では、5日間にわたるエコツアーの詳しい行程(日程表参照)とモンゴル草原での体験、砂漠風景やラマ教寺廟の観覧、重工業都市包頭での製鉄所見学について、VTRを見ながら詳しくお話していただいた。

時間の都合上、詳しく説明することはできなかったが、筆者は北京・呼和浩特・包頭における携帯バジによる大気汚染調査の結果について資料をお配りした。この大気

汚染調査は、神戸市環境局の今井佐金吾氏の御協力によって実現したものであるが、包頭市のサーマルNOxの数値に特に顕著に相違が表れていたという点で、非常に興味深い調査であったと言えるだろう。しかし、今井氏が測定結果のレポートの中で述べられているように、バジ着用者の暴露量を把握するだけでなく、ホテルの窓の外、バスの窓に吊るすなど、一般環境大気に暴露させる調査も同時に実施していれば、より多くのデータが採取でき、さらに詳しい環境測定ができたのかもしれない。次回からのエコツアーにおいては、こうした経験を踏まえて、双方の協力によってより具体的なデータが得られることになるだろう。また、エコツアーによるこうした環境教育を接点とした世界ネットワークの構築によって緊密な情報交換が今後展開してゆくのではないだろうか。

日 程 表

- 8月15日 関西国際空港発
- 8月16日 日中環境教育情報交流協会第1回記念シンポジウム開催
- 8月17日 シンポジウム(2日目)講演、一般研究発表の後、K89号夜行列車にて内モンゴル自治区の区都フフホトへ。
- 8月18日 フフホト駅から四子王旗草原(コクントラ草原)へ。大草原にて蒙古族の生活を体験し、パオに宿泊する。
- 8月19日 コクントラ草原から包頭へ、途中、汚水処理場を見学、砂漠風景を観賞。
- 8月20日 包頭にてラマ教寺廟見学、午後から包頭市郊外の製鉄所(包頭鉄鋼集団)を見学後、T90号夜行列車にて北京へ
- 8月21日 北京到着、フェアウェルパーティー
- 8月22日 帰国

ネットワーク掲示板

5/26 ~ 28

日本環境教育学会第11回大会(長野)のご案内

第11回大会を下記のように開催いたします。長野らしい大会として、会場周辺での遠足を計画しました。また中学校を会場にするなど、新しい企画で準備を進めております。無料の公開シンポジウムも行われますので、お誘いあわせの上、ぜひ多数ご参加ください。

会場：戸倉上山田中学校：しなの鉄道戸倉駅（JR長野駅より20分・JR上田駅より15分）下車、徒歩10分

日程

5月26日（金）

13:00 ~ 17:30 遠足

5月27日（土）

10:00 ~ 12:00 講演・ポスター

13:30 ~ 16:30 公開シンポジウム「環境教育 - 学校の内外 - 」

16:40 ~ 17:40 総会

18:00 ~ 20:00 懇親会

5月28日（日）

9:00 ~ 12:00 講演・ポスター

13:00 ~ 16:00 講演・自由集会等

- 1)湯の丸：池の平湿原の自然を観察し、自然保護を考えます。
- 2)飯綱山：長野五輪の影響を長野市および飯綱高原に見ます。
- 3)ピオトープ：長野市内の水辺での関わりの実例を見ます。
- 4)動物園：茶臼山動物園で教育プログラムを使ったワークショップをします。
- 5)ゴミ：産業廃棄物処分場と焼却場を見学し、地域の環境を考えます。
- 6)松代：地域教材として使われている歴史遺産の松代大本営を見学します。

参加：大会には、会員・非会員にかかわらずどなたでも参加できます。

講演・ポスター発表：申し込みは会員に限り、いずれか一人一件です。共同発表には非会員も可能です。講演は15分、OHPの

み用意します。ポスターは120cm × 180cmのパネルを用意します。

自由集会等：集会等開催の可否や要旨原稿については別途3月上旬に連絡します。

遠足：自然の豊かな長野県でも多くの環境問題があり、環境教育の取り組みがあります。それらの一端を紹介いたしたく以下の遠足を計画しました。

大会参加費（要旨集代を含む）：2月29日までの入金は4,000円、それ以降4,500円、学生は期日に限らず2,000円/懇親会4,000円/遠足2,500円が必要です。

締め切り：講演・ポスター発表、自由集会等の申し込み締め切りは2000年2月29日（消印有効）です。要旨原稿の締め切りは2000年3月31日（消印有効）です。

申込書郵送先および大会に関するお問い合わせ：
〒380-8544 長野市西長野6 信州大学
教育学部 渡辺隆一研究室気付
日本環境教育学会第11回大会実行委員会事務局
TEL.026-238-4164 FAX.026-234-5540

7/15 ~ 16

第26回 日本環境学会研究発表会開催要領
2000年度の日本環境学会研究発表会（後藤隆雄実行委員長）を下記の要領で行います。今年は2000年代の始まりだと騒がれていますが、同時に波乱の時代であった20世紀の最後の年でもあります。実行委員会は、環境に強い関心をもつ研究者・市民として、20世紀の総括を行い、さらに来る21世紀に向け、持続可能な社会への展望をきりひらくことのできる有意義な学会になることを期待しています。



日本環境学会は26年前の創設以来、総合的な環境研究、市民に開かれた環境研究の場としての自負を持ち続けてきました。会員はもちろん、一般市民の方々のご参加、ご支援を心からお待ちしております。

1. 開催期日：2000年7月15日(土)、16日(日)
 2. 会場：神戸大学工学部講義棟および滝川記念会館
(〒657-0013 神戸市灘区六甲台町、代表 Tel.078-881-1212)
- 当日連絡先：後藤隆雄(神戸大学工学部・実行委員長)
Tel.078-803-6235 Fax.078-803-6390
E-mail gotoh@kobe-u.ac.jp

会場へのアクセス：

JR 六甲道(「快速」停車)下車
阪急、阪神利用の場合は大阪梅田から 六甲(阪急)御影(阪神)下車
いずれもバス(神戸市営)乗り換え(バスは御影から六甲道、六甲を経由)
「鶴甲(つるかぶと)団地」行き(36番)「神戸大学本部・工学部前」下車
または「六甲ケーブル下」行き(16番)「神戸大学国際文化学部前」下車

3. 費用

- (1) 参加費：2000円(一般)1500円(院生)無料(学部学生、報道目的の入場)
- (2) 予稿集代：1,500円
- (3) 懇親会費：5,000円

4. 研究発表をしない参加

会員、非会員を問わず、自由ですただし参加費はお支払いいただきます(上記)。院生、学生諸君は、受付で申し出てください。報道目的の入場には参加費はいただきませんが、必要ならば、予稿集はお買い求めください。

5. シンポジウム開催

冒頭に記しました実行委員会の期待に近づく一つの方法として、シンポジウム

「20世紀の総括から、21世紀の課題を探る」を企画、つぎの2部構成として開催します。ご期待ください。

- 第1部 公害の世紀 - 20世紀をふりかえる
- 第2部 環境の世紀 - 21世紀を展望する

6. 問い合わせ先

第26回日本環境学会研究発表会実行委員会事務局(日本環境学会近畿支部事務局)
〒520-0533(滋賀県滋賀郡)志賀町小野朝日1-7-2 林智気付
Tel. & Fax.077-594-1572
E-mail: hayashi-s@muc.biglobe.ne.jp

.....

編集後記

やっと創刊号を皆様にお届けすることになりました。日中環境教育情報交流協会の設立と同様に、本年の8月に本協会のランチ・日タイ環境教育文化交流協会の設立準備と、4月の第2回大会の準備におわって発行が遅くなりました。

これからは、年4回のニュースレターにしたいと考えております。ニュース提供など、皆様のご協力をお待ちしています。

投稿先、連絡先は下記の事務局までファックスかE-mailにて22x75行程度(1ページ分)でお願いいたします。写真なども掲載可能ですので、コミュニケーションの場としてご活用ください。

下記のホームページにも最新の情報を掲載しておりますので、ご参考してください。



「地球環境と世界市民」国際協会ニュースレター No. 1
事務局：「地球環境と世界市民」国際協会
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1
甲南大学文学部人間科学科 谷口研究室内
Tel/Fax.078-435-2368 E-mail: fumiaki@konan-u.ac.jp
Homepage: http://www.nk.rim.or.jp/~fumiaki/iaeg/iaeg_j.html
